

ヒューマンサポート湘南 院長
神奈川工科大学 非常勤講師
福祉クラブ生活協同組合 顧問
松沢 明彦



福祉、教育、東洋医学、生活協同組合等の分野にて仕事をしています。

具体的には、特別養護老人ホーム3施設にて、認知症の方々を中心に鍼灸、マッサージ施術。工業大学の創造工学部にて、福祉関連教科の授業担当。福祉クラブ生協にて、福祉関連事業の助言、お手伝いをしています。

ボランティア活動を含めると、30年近く福祉の世界に身を置いています。その月日の中で一番好きなことは、言葉にならない、言葉にできない方々との時間の共有。

アルツハイマー型認知症の方にマッサージ施術をした時のこと。記憶力が低下し、先週の施術を受けたことを忘れ、「何をするんじゃー」と怒り出すAさん。冗談やジェスチャーにて、場の雰囲気や和らげながらのマッサージ。だんだんと状況を理解され、「先生ありがとうございます。背中がおいしいよ。背中がおいちいよ」。認知症が進み、「背中が気持ち良い」というような表現が出来ない。記憶に残り、想起できる言葉が「おいしいよ」「おいちいよ」。

一生懸命に言葉を探し、こちらに思いを伝えようとされていた。

伝えたいことがあるのに伝えることが上手にでない方。知的障害の方、失語症の方、構音障害の方、ほか大勢の方々。

「うん。そうだよね」が連なる福祉のフィールド、息づく街が好き。そんな関係を作る接着剤になれる、代弁者になりたい。

イタウンティージャー（以下、MTT）として、授業の時間に派遣します。MTTは職業体験の場面だけではなく、年間のプログラムを通じて、自身の職業観や勤労観を丁寧に子どもたちに伝えていきます。賛同する企業は、自動車工場、旅行会社、飲食店、金融、警察、通信会社、ガソリンスタンド、専門学校等、職種は多岐に渡ります。細野さんはプログラムの効果を次のように感じています。

「子どもたちから、MTTと関わったことで、『これからの目標が持てた』『将来の仕事のイメージがわいた』などの声が聞かれます。職場体験では、『元氣よく挨拶する』『わからないことがあったら質問する』など、人との関わり方への気付きや、親や教師とは違う第三者の大人から認めてもらえる経験をします。この経験は、人から大切にされる感覚を得る機会になります。また、MTT自身も、自分の仕事の説明をすることから、仕事に対する考え方を見直し、振り返る機会になることや、社員としてのアイデンティティの向上、

地元への社会貢献にもつながるなど、相乗効果も見られています」

愛着心を育む環境を企業が作る

細野さんは、一人ひとりが将来に向けて成長をする力を育むのに、企業の役割を伝えます。

「仕事を見せ、働くことを身近に感じながら、子どもが社会と関わる環境づくりを、企業が担うことで、教育・産業分野、それぞれの立場で得手を生かしながら子どもの育ちを共有し、連携した仕組みを作ることができます」

子どもたちの心の成長には、身近なところでの豊かな体験が不可欠といえます。この取り組みでは、体験が充実するように企業が子どもの育ちに関心を持つことの大切さを伝えます。

生活体験が豊かなほど、学ぶ姿勢や道徳感、人への愛着心など、将来社会の構成員となる子どもたちの豊かな人間性が育まれていきます。地域の中でこうした育ちに関心を持つ人、様々な資源を活用した体験の場づくりが求められています。

（企画調整・情報提供担当）